

## 質問 27. 神の摂理とは何ですか

答え I 全能であり、すべての所に臨在なさる神の力によって、<sup>0 1</sup>天と地とすべての被造物を捕らえ支配しておられるのです。<sup>0 2</sup>それゆえ、木の葉も草も、雨もひでも、豊作の年と不作の年も、食べ物も飲み物も、健康も病も、富も貧困も<sup>0 3</sup>、すべてが偶然に来ることではなく、<sup>0 4</sup>神の愛の御手によるのです。<sup>0 5</sup>

① 摂理とは「アドナイ・イルエ」という言葉が登場する創世記 22 章 14 節に根拠としています。主は供給してくださり、お世話してくださるということです。「摂理」という単語は、文字的に、あることをあらかじめ知っていることを含んでいて（使徒 15:18、エペソ 1:11）、あることを供給したり、お世話することを意味するからです（1 ペテロ 5:7、創 22:8、14）。つまり、摂理とは、何かをあらかじめ知っていて供給してくださることです（1 テモテ 5:8）。従って摂理の神は、現在と未来に供給される方であることを意味します。神の摂理は、神の全能性と全

---

01 エレミヤ 23:23-24、使徒 17:24-28.

02 ヘブル 1:3.

03 エレミヤ 5:24、使徒 14:15-17、ヨハネ 9:3、箴言 22:2.

04 箴言 16:33.

05 マタイ 10:29

知性に根拠を置いています（詩 89:13、イザヤ 40:26, 46:10、使徒 17:27-28）。

② どんな被造物でも自分らのために供給することはできません。ただ神だけが、宇宙のために供給なさることができる方です（1 歴代 29:12、イザヤ 40:26）。ただ神だけが知恵に満ち、全能の方だからです（ユダ 1:25）。神は私たちから遠く離れてはおられない、その方によって私たちが動き生きて行けるのです（使徒 17:27-28）。それは、御子と御霊を通しての父の働きです（マタイ 6:26-34、ロマ 8:32）。

③ 神の摂理は、世界を保たせ、支配なさることにまで及ぶので、ご自分の造られたすべてに拡大されます。神の摂理とは、人が生まれることと、死ぬこと（ヨブ 10:10-12）、<sup>06</sup>金持ちになること、貧しくなること（1 サム 2:7）、健康だったり病にかかったり（ヨブ 5:18）、戦争や平和（イザヤ 45:7）にまで及びます。

神の摂理は、まして人々の自発的な行動にも及びます（詩 139:2-4、箴 16:9, 21:1、ヤコブ 4:13-15、1 サム 10:26）。神の摂理によってすべての被造物が存在するので、神がすべてを捕らえているゆえ、それらは命を維持しているのです（詩 104:30）。このような摂理を通して、その支配は永遠の支配であり、その方が宇宙万物の主権者であることを現わします（ダニエル 4:34-35）。神のこのような支配はかつ善なるものです（創 50:20、イザヤ 10:5-7）。

④ 神の摂理には、間接的なものと直接的なものがあります。間接的な摂理とは、神が特定手段を通して供給なさることです（ホセア 2:21-22）。直接的な摂理

---

<sup>06</sup> 人間がいくら強い決心をして死のうとしても、神の摂理がなければ死ねません（ヨブ 14:5）

とは、他の手段なく供給なさることですが、例えば、モーセやイエスさま 40 日間断食をなさった時、食べるものと飲むこと無しに、命が保たれました。

神がある手段を用いる時、その手段が、みすぼらしく、しょうもない場合が多いです。神はギデオン 300 人を通して 13 万 5 千人のミデヤン陣営を打ち砕きました。神の摂理は、通常的なものと、非常なものに区別されます。通常的な摂理は、立てられた自然の過程に従って働かれる場合で、非常な摂理は、立てられた自然の過程を飛び越えるのです。非常な摂理の例を挙げるなら、カラスを通して、飢えていたエリヤにお肉を提供なさったことです。

⑤ 神の摂理は、一般摂理と特別摂理とに区別されます。一般摂理とは、ご自身のすべての被造物、つまり敬虔でない者にも施すのです。天と雲と太陽と雨を与え、季節を与え、実を結ばせることもです (マタイ 5:45)。

特別な摂理は、キリストにあって、父として聖徒たちに必要すべてを供給なさることを言います (1 テモテ 4:10)。このような神の特別な摂理は、その民たちを導き、困難の中から救い出し、圧制から救出してくださることを含めます。勿論、このような神の特別な摂理が、聖徒の祈りの義務を免除するものではありません。神は私たちの必要すべてをご存じであるけど (マタイ 6:32)、私たちは神に求めなければなりません (マタイ 7:7)。それは、すべてが神から来ることを認め、感謝するようにさせるためです。

質問 28. 神が、創造なさったことと、その摂理によってすべてを捕らえておられることを、知る知識が私たちにどのような有益を与えますか。

答え I 私たちが逆境においては忍耐強く、<sup>0 1</sup> 順境においては感謝し、将来については、<sup>0 2</sup> 私たちの真実な父なる神を堅く信じます。<sup>0 3</sup> どんな被造物もこの方の愛から私たちを引き離すことはできないと確信できるようになる、ということです。なぜなら、あらゆる被造物はこの方の御手の中にあるので、御心によらないでは、<sup>0 4</sup> 動くことも動かされることもできないからです。

① 創造と神の摂理に対して、確実な知識を持つことによって得られる有益は、信仰が強化されることです。それで全能なる神について確信を持つようになります。すべての逆境の中でも神が捕らえてくださるという知識によって、私たちは忍耐することができます (ヤコブ 1:2-3)。それで、神の御心に服従できます (ダニエル 4:35、IIサム 15:25-26、16:10、1 テモテ 6:7)。そして神の御心に自分を委ね、静かに待つことができるようになります (詩 39:9、73:24、IIコリント 12:8-9)。神の摂理に対する知識は、今味わっていることにも感謝するようになります (創 32:10、1 テサロニケ 5:18)、未来のすべて良いものが、神から来ることについて、望み

---

01 ヨブ 1:21-22、詩篇 39:19、ヤコブ 1:3.

02 申命記 8:10、1 テサロニケ 5:18.

03 詩篇 55:22、ロマ 5:3-5、8:38-39.

04 ヨブ記 1:12、2:6、箴言 21:1、使徒 17:24-28.

を持つようにさせます（詩91:9-12）。

② 神の摂理を否定する者たちは、人間自身の力を信じたり、時には、偶然と運を信じて従う者たちです。それゆえ、彼らは神を求めもせず、彼らの考えの中には、神はいないので（詩10:4）。彼らは平安な時には一層傲慢になり、富を得るようになればさらに欲を出します。彼らは、その靈魂を取られる神について、一切考えずに生きて行きます（ルカ 12:19-20）。彼らは自分の力で成し遂げたのだと考えます（申8:17）。人間は、明日のことを知らないのにも、彼らは自分と明日についても自ら確信を持っているのです（ヤコブ 4:13-15）。

③ 一方で、神の摂理を乱用して、怠けに陥って、相応しい手段は用いないで、神の摂理を叫びながら、神が怠ける者たちにも供給してくださると語る者たちがいます。病気で寝込んでいるのに、薬は使用しないで、神の摂理だけを言いながら、そのまま寝てばかりいる者たちと同じ場合です。

救いについて、このように考えながら、何もしない者たちは大変危険です。彼らは「もし、私が選ばれているなら救われるでしょう。もし、罪に定められているなら人間がどんなに努力しても無駄ではないのか」と言います。彼らは神が人間を救うために決められた恵みの手段が何であるのかを知らない者たちです。彼らはまさしく、悪く、怠け者です（マタイ 25:26）。

④ 神の摂理について不信する者たちがいます。彼らは、自分たちの努力によって自らを救おうとする者たちです（イザヤ 30:1, 31:1）。このような者たちは、神の摂理によってすべてが供給されているが、すぐに、神を忘れてしまう者たちです。また、救いを軽く思う者たちです（申 32:15）。

⑤ 従って、神の摂理について黙想しなくてはなりません。すべてのことに秩序あるようにさせ、美しくさせる神の全能なる御手について賛美すべきです（詩 107:43、イザヤ 40:26）。そして、摂理の御手を見せられる神について敬う心があふれるべきです（詩 33:8-9、95:3-5、エレ 5:24）。

また、苦難の中にいる者は忍耐しなければなりません。神の主権と正しさについて黙想することで、自分の心を自ら進んで主に屈服させるべきです（ヨブ 1:21-22、詩 119:91）。なぜなら神は主であり、ご自分の御心のまま、そして、その正しさの中ですべてを行われる方だからです（詩 75:6-7）。それゆえ、神に不平を言ったり恨んだりする代わりに、むしろ自分の罪によって苦しみを受けるようになるということを記憶しなければなりません（Ⅱサム 16:10、哀歌 3:37-39）。

順境においては感謝することです（詩 116:12-14）。そして、どのようなことが、私たちの前に起きようとも、真実な父なる神に確かな信頼を捧げることです。聖徒は時々心配事と思ひ煩いに陥って恐れます。その時は、神に望みを置き、揺れ動かない、静かで平安な心を持ち、待つことが聖徒の義務です（詩 37:5、1ペテロ 5:7）。